

## 6 智恵の「都」をつくる

### 【基本的方向】

すべての県民が、生涯良く学び続けられ、奈良の歴史文化に親しめる地域をつくる。

### 【数値目標】

- (1) 学習意欲に関する4項目に肯定的に回答する小中学生の割合 小学生 84.3% 中学生 74.3% (令和元年度) →全国平均以上 (令和6年度)
- (2) 自尊心・自分にはよいところがあると思うと回答する小学生の割合 79.8% (令和元年度) →全国平均以上 (令和6年度)
- (3) 文化遺産や史跡が大事にされること (県民アンケート調査満足度(5段階評価)) 3.57ポイント (令和元年度) →3.5ポイント以上を維持 (令和3年度)
- (4) 芸術・文化を行う県民の割合の全国順位 5位 (平成28年度) →1位 (令和3年度)
- (5) 国際交流を行う地方政府等の数 82機関 (令和元年度) →92機関 (令和6年度)

### 【具体的施策】

#### (19) 教育の振興

##### ① 県立大学の教育の充実

本県では、県立大学の教育環境充実を図っており、大学改革を加速します。

施設整備基本計画に基づく整備イメージ



### <KPI>

指標名	現状値	目標値
学術論文発表の件数	35件 (平成30年度)	40件 (令和6年度)

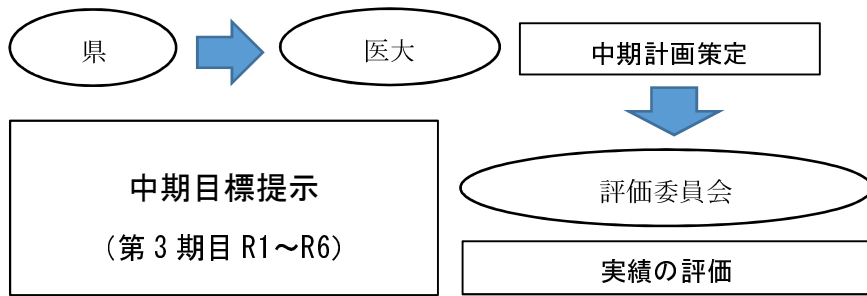
### <具体的な取組>

- 地域課題に主体的に取り組む人材や国際社会で活躍する人材の育成
- 地域のシンクタンク機能を果たす仕組みづくりを推進
- 県立大学附属高校を設置し、高大連携・接続による教育効果を向上
- キャンパスの整備を推進

### 【具体的施策】

#### ② 県立医大の教育の充実

第2期中期計画に基づき、県立医科大学の改革を進めてきました。令和元年から6年間の第3期中期目標、中期計画のもと、医大改革をさらに進めます。



### <KPI>

指標名	現状値	目標値
評価委員会の項目別評価（5段階評価）	全項目Ⅳ（平成30年度）	全項目Ⅳ以上の維持（令和6年度）

### <具体的な取組>

- 医学科・看護学科卒業生の県内就業率の確保
- 県立医大医師派遣センター等を通じた地域の医療機関への配置医師数の増加
- 特定行為研修を修了した看護師数の増加
- 県民健康増進支援センターによる県・市町村及び民間医療機関等の支援
- 24時間365日ER型救急医療体制の確立
- 高い紹介率・逆紹介率の維持
- 「医師・患者関係学講座」の設置等による「良き医療人育成カリキュラム」の充実

## 【具体的施策】

### ③大学との連携

大学の高度な知的資源を活用し、県政の様々な課題への対応策を検討・実施するため、早稲田大学(平成 20 年度包括連携協定締結)及び近畿大学(平成 28 年度包括連携協定締結)と連携事業を展開しています。外国の大学も含め、連携のさらなる進展を図ります。

## <KPI>

指標名	現状値	目標値
大学連携のさらなる充実	連携事業数 79 件(県全体)(令和元年度)	連携事業数 100 件(県全体)(令和 6 年度)

## <具体的な取組>

- 多様な分野における大学との連携を充実・強化

## 【具体的施策】

### ④県立高校教育の充実

本県では、県立高等学校の設備・施設の改善を進める一方、教育振興大綱を策定し、県立高等学校教育の質の向上に取り組んでいます。教育委員会は「県立高等学校適正化実施計画」に沿って、「魅力と活力あるこれからの高校づくり」をコンセプトとして県立高等学校教育の質の向上を推進します。

情報の授業の様子



福祉の授業の様子



<KPI>

指標名	現状値	目標値
県立高等学校適正化実施計画に基づく高等学校再編の完了	県立高等学校数 33 校（令和元年度）	県立高等学校数 29 校（令和 4 年度）
県立高等学校適正化実施計画に基づく国際中学校の設置	未設置（令和元年度）	県立国際中学校 1 校設置（令和 5 年度）
県立学校施設の長寿命化整備計画の策定	未策定（平成 30 年度）	計画の策定（令和 2 年度）
県立高等学校の耐震化率	94.3%（平成 30 年度） （特別支援学校の耐震化完了）	100%（令和 4 年度）
県立高等学校普通教室への空調設備設置率	77.1%（平成 30 年度） （特別支援学校普通教室への設置は完了）	100%（令和 4 年度）

<具体的な取組>

- 時代の変化に対応した新しい高校の設置
- 地域と共にある学校づくりの推進、実学教育の推進
- 専門教育の充実
- 県立国際中学校の設置
- 県立学校施設の長寿命化整備計画の策定、計画に基づく整備の実施
- 県立高等学校の耐震化の推進
- 耐震化完了までの安全対策を実施（仮設校舎の設置等）
- 全ての県立高等学校普通教室への空調設備の設置

【具体的施策】

⑤実学教育の充実

本県の産業・地域を支える地域人材を育成するためには、県立高等学校における実学教育の充実が不可欠であり、地域の産官学連携の充実強化を図ります。また、県立高等学校での有給インターンシップを実施します。

奈良県とDMG森精機との包括連携協定に基づく加工機導入セレモニー



最新鋭の工作機械を使用したDMG森精機技術者による授業（御所実業高校）



## <KPI>

指標名	現状値	目標値
高校生の技能検定3級合格率	73.1%（平成30年度）	80.0%（令和6年度）
インターンシップコーディネーターによる企業等訪問数	0回（平成30年度） ※コーディネーター未配置	延べ120回（令和6年度）
県立高等学校での有給インターンシップの実施企業等数	0社（平成30年度）	5社（令和6年度）

## <具体的な取組>

- 連携協定企業と協働した人材育成の新たな仕組みを構築
- 奈良県版デュアルシステムの推進を図り、職業に必要な実践的かつ専門的技術等を身に付けるためのカリキュラムの編成
- 県立高等学校での有給インターンシップの仕組みの構築及び実施
- キャリアサポートセンターにインターンシップコーディネーターを配置

## 【具体的施策】

### ⑥就学前教育の充実

奈良県教育振興大綱の趣旨を踏まえ、県内の幼稚園、認定こども園及び保育所における3歳児から5歳児への教育の充実を図るため、「奈良県版就学前教育プログラム」の実践・普及を推進します。

<KPI>

指標名	現状値	目標値
公立幼稚園、認定こども園、保育所における、奈良県版就学前教育プログラム「はばたくなら」活用率	0%（平成30年）	80%（令和6年度）
奈良県版就学前教育プログラム「はばたくなら」実践事例の作成	0（令和元年度）	50事例を作成（令和6年度）
「音感受への意識が育む『豊かな感性と表現』」に関する講演等の実施	1回（令和元年度）	3回（令和2年度）

<具体的な取組>

- 乳幼児の「心を育む」保育の推進
- 奈良県就学前教育関係者協議会・奈良県就学前教育推進会議による取組の推進
- 「はばたくなら」の県、市町村、関係団体での活用や、幼稚園・保育所等各施設類型における「はばたくなら」の実践
- 奈良県版就学前教育プログラム「はばたくなら」実践事例の作成、普及・啓発
- 「豊かな感性と表現」に係わる教育・保育の提供による、知能・神経の発達を促す活動の実践

【具体的施策】

⑦私学の振興

本県では、私立学校が大きな役割を果たしており、私学教育の質の維持・向上を目的として、優秀な教員の確保や教育環境の充実などに資するよう、私立学校の運営費に対する補助などを行っています。今後とも、学校に対する運営費補助と学費負担者に対する授業料軽減補助の二つの補助制度を活用しながら、私立高等学校における教育の振興に取り組めます。

<KPI>

指標名	現状値	目標値
補助を活用した私学の優れた取組事例の件数	1校あたり7.2件（平成30年度）	1校あたり7.5件（令和6年度）

## <具体的な取組>

- 学校法人に対する運営費の補助
- 学費負担者に対する授業料の軽減補助

## 【具体的施策】

### ⑧教育ICTの推進

本県の教員のICT活用指導力、校務用コンピュータ整備率が全国で低位にあることを踏まえ、STEAM教育エバンジェリストの養成をはじめとする教員研修を充実、県内の全ての学校を対象とした統合型校務支援システム導入を推進します。

※STEAM・・・Science（科学）、Technology（技術）、Engineering（工学）、Art（芸術）、Mathematics（数学）の頭文字をとったもので、科学・技術・工学・芸術・数学教育を統合した教育を意味する、国際的に用いられている教育分野のこと

※エバンジェリスト・・・ITのトレンドや最新技術について解説し、啓蒙する、IT業界の新しい職種  
の名称

### プログラミング教育指導教員養成塾



## <KPI>

指標名	現状値	目標値
教員のICT活用指導力	81.9%（平成30年度）	90.0%（令和7年度）
エバンジェリスト育成研修受講数	31名（平成30年度）	345（各校1）名（令和2年度）
統合型校務支援システム導入市町村数	4市町村（平成30年度）	39市町村（令和4年度）

## <具体的な取組>

- 全公立学校に統合型校務支援システムの導入促進
- STEAM教育エバンジェリスト育成研修
- 教員1人1台の校務用コンピュータの整備に向けた支援

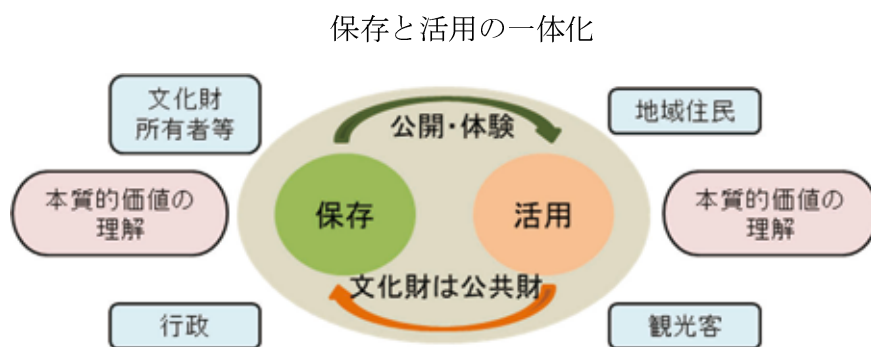
## 【具体的施策】

### (20) 文化財の保存・活用、文化財の防災・文化の振興

#### ①文化財の保存と活用方針の策定、文化財防災対策の構築

文化資源を未来の世代に残すための「保存」と、その価値を社会に伝えるための「活用」について、一体的に取り組む方針を策定し、その方針に基づき文化財の保存・活用を推進します。

また、貴重な文化財の多い本県では、文化財の防災対策が極めて重要であり、社寺と協力して文化財の防災対策を強化します。



法隆寺防災訓練



## <KPI>

指標名	現状値	目標値
文化財の保護に向けた県指定文化財への新規指定件数	38件（平成26年度～平成30年度の5年間）	40件（令和2年度～令和6年度の5年間）
未指定仏像実態把握調査事業による未指定仏像調査件数	70件（平成28年度～平成30年度の3年間）	125件（令和2年度～令和6年度の5年間）
県指定文化財（建造物）自動火災報知設備設置率	69.9%（平成30年度末）	75.0%（令和6年度）
文化財防犯・防火・防災関係者連絡会議参加者数	直近3年平均119名（平成29年度～令和元年度）	直近3年平均参加者数を維持（令和6年度）

## <具体的な取組>

- 文化財の保存と活用による一体的な施策を展開
- まちづくりや景観、観光など他の政策分野との連携強化
- 未指定文化財の調査、把握
- 指定に向けた手続きの標準化、透明化
- なら歴史芸術文化村等で活用するための未指定仏像実態把握調査事業等の展開
- 「（仮称）奈良県文化財防火対策推進条例」制定の検討



- 文化財防災対策推進計画の策定
- 災害発生時の対応マニュアルの整備
- 文化財防犯・防火・防災関係者連絡会議の重要性を周知

## 【具体的施策】

### ②文化の振興

奈良県文化振興大綱に基づき、県が目標とする姿（芸術文化を行う県民の割合全国1位）となるよう、文化振興施策を推進しています。芸術・文化で奈良をいきいきとするため、文化関連条例を制定し、文化振興施策の総合的・戦略的展開を図ります。また、日本博を開催する国の動向を踏まえ、本県が発信するにふさわしい文化資源やテーマに関するイベントを国内外へ情報発信していきます。さらに、歴史文化資源を多数有する本県の文化・奥深さを発信し、誘客促進を図るため、博物館などの文化施設を拠点とした地域文化資源の面的・一体的整備（文化クラスター形成）を推進するなど、様々な事業を展開していきます。

県内歴史文化資源



古民家修理現場公開



菊花展



<KPI>

指標名	現状値	目標値
文化遺産や史跡が大事にされること（県民アンケート調査満足度(5段階評価)）	3.57 ポイント（令和元年度）	3.5 ポイント以上を維持（令和3年度）
芸術・文化を行う県民の割合の全国順位	5 位（平成 28 年度）	1 位（令和 3 年度）
県立文化施設の来訪者数	1,255 千人（平成 30 年度）	1,905 千人（令和 6 年度）

<具体的な取組>

- 文化振興施策の総合的・戦略的な展開
- 文化財の保存と活用による一体的な施策を展開
- まちづくりや景観、観光など他の政策分野との連携強化
- 県内文化施設での講演会、シンポジウム、展示等の実施
- 奈良公園周辺の世界遺産等を含むルートマップの活用

【具体的施策】

③記紀万葉プロジェクト

本県では、記紀万葉をテーマとして奈良ゆかりの歴史文化の情報発信をしています。2012年より取り組んでいる「記紀・万葉プロジェクト」の集大成として、日本書紀完成1300年にあたる2020年（令和2年）には、藤原不比等没後1300年を記念した事業や、記紀・万葉関連の講演会・イベント、記念誌の制作などを行います。また、2021年（令和3年）以降は、記紀万葉ゆかりのテーマを毎年新たに設定し、継続的に奈良の歴史文化情報を発信するとともに、「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」の世界遺産登録に向けた取組を強化します。

古事記のまつり  
古事記こどもかるた大会



古事記のまつり  
古事記朗唱大会



藤原不比等



イベントのイメージ



飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群



### <KPI>

指標名	現状値	目標値
県立文化施設の来訪者数（再掲）	1,255 千人（平成 30 年度）	1,905 千人（令和 6 年度）

### <具体的な取組>

- 集大成年に当たる 2020 年（令和 2 年）は、これまで実施してきた記紀万葉プロジェクトを体系的に整理・集約し、事業を実施
- 令和 6 年度の「飛鳥・藤原」の世界遺産登録に向けた取組
- 歴史文化資源をテーマとしたシンポジウムやイベントの実施
- 明日香村における VR・AR 技術やスマートフォンアプリ等を活用した歴史文化資源の展示等の推進

## 【具体的施策】

### ④なら歴史芸術文化村の活用

なら歴史芸術文化村は、奈良が誇る歴史文化資源に触れ、また、質の高い文化芸術イベントを体験できる歴史芸術文化活動の拠点として整備しています。観光・産業振興等の取組と連携し、地域活性化にも繋げていきます。

なら歴史芸術文化村イメージ



## <KPI>

指標名	現状値	目標値
文化遺産や史跡が大事にされること（県民アンケート調査満足度(5段階評価)）（再掲）	3.57 ポイント（令和元年度）	3.5 ポイント以上を維持（令和3年度）
芸術・文化を行う県民の割合の全国順位（再掲）	5 位（平成28年度）	1 位（令和3年度）
県立文化施設の来訪者数（再掲）	1,255 千人（平成30年度）	1,905 千人（令和6年度）

## <具体的な取組>

- 文化財修復過程の公開・解説や文化財の展示
- アーティストの誘致・交流や文化芸術の体験イベント等の開催
- 地元農産品や伝統工芸品の販売、産直レストランの運営
- 周遊につながる観光情報（歴史文化資源等）の情報発信

## 【具体的施策】

### (21) 海外との交流展開

#### ①東アジア地方政府会合の充実発展、海外の交流団体との連携

平成 22 年（2010 年）に、平城遷都 1300 年を記念して設立した「東アジア地方政府会合」を継続的に開催し、東アジアとの交流を推進します。今後も、東アジアの今日的共通テーマを取り上げ、議論や情報交換を行い、地方政府の行政能力向上と、平和で安定した東アジアの発展に貢献します。

また、中国・陝西省、韓国・忠清南道等、これまで実施してきた海外地方政府との交流を更に発展させ、新たな分野での交流にも取り組みます。さらに、地方政府間だけでなく、海外の新たな団体との連携により、共通の課題への取組や新たな人的交流・技術交流を促進し、相互にとって有益となる交流を進めます。

#### 第 10 回東アジア地方政府会合



学生交流（陝西省）



林業技術交流（リース林業教育センター）



清華大学との覚書締結



#### 友好交流先

- ・ 中華人民共和国 陝西省（2011 年友好提携締結）
- ・ 大韓民国 忠清南道（2011 年友好提携締結）
- ・ スイス連邦 ベルン州（2015 年友好提携締結）
- ・ ベトナム社会主義共和国 フートー省  
（2014 年友好県省関係の発展に関する覚書締結）
- ・ スイス リース林業教育センター（2016 年覚書締結）
- ・ 中華人民共和国 清華大学（2019 年覚書締結）

<KPI>

指標名	現状値	目標値
東アジア地方政府会合の参加地方政府数（累計） ※全体会合及び分科会	454 地方政府（令和元年度）	680 地方政府（令和6年度）
次世代養成事業における青年派遣数（累計）	107 名（令和元年度）	137 名（令和6年度）
海外との青少年スポーツ交流人数（累計）	51 名（令和元年度）	136 名（令和6年度）
奈良県フォレスターアカデミー等で学んだフォレスターの市町村配置人数（累計）	0 名（令和元年度）	10 名（令和6年度）
新たな交流団体との交流事業数（累計）	0 事業（令和元年度）	5 事業（令和6年度）

<具体的な取組>

- 東アジア地方政府会合の海外開催の推進
- 東アジア地方政府会合の討議等のさらなる充実
- 県内外への東アジア地方政府会合のさらなる情報発信
- 友好提携先に次世代を担う青年を派遣
- 友好提携先とのスポーツ分野における青少年相互交流
- スイスの制度を参考にした新たな森林管理制度の構築
- 中国清華大学との包括交流に関する覚書に基づく交流
- ウズベキスタン・サマルカンド州等との新たな友好交流
- スペインのBCC（バスクカリナリーセンター）とNAFIC（なら食と農の魅力創造国際大学校）との連携

※BCC・・・バスクカリナリーセンター（スペイン・バスク地方にある世界的な4年制の料理専門大学校）

【具体的施策】

②奈良の仏像、文化財の海外展示のこれから

フランスのギメ東洋美術館及びイギリスの大英博物館における仏像展示の実績や経験を踏まえ、次の展開に向けた検討を進めます。

ギメ東洋美術館



大英博物館外観



## <KPI>

指標名	現状値	目標値
文化遺産や史跡が大事にされること（県民アンケート調査満足度(5段階評価)）（再掲）	3.57 ポイント（令和元年度）	3.5 ポイント以上を維持（令和3年度）

## <具体的な取組>

- 海外における県内文化財の展覧会等の開催
- 国内外における文化資源を活かしたイベント、展覧会等の情報発信
- 文化資源のデータベース運用
- 文化資源の情報発信の強化
- 海外研究機関等との協定に基づく研究交流